50年間にわたって育まれる地域との絆

桑名市民会館「NTNシティホール」

県内では稀有な回り舞台の機構を装備した大ホール、音の響きが美しい手頃な小ホールなど、市民の文化発信拠点として、長年親しまれてきた桑名市民会館。4月1日から愛称が「NTNシティホール」へ変わります。

1_今年4月から「NTNシティホール」に愛称が変わる市民会館　2_新設されてから10年経った今でも、小ホールに足を踏み入れると、ヒノキの爽やかな香りが漂います　3_鏡張りのリハーサル室。ダンスなどの練習にも活用される　4_地下にある、回り舞台の舞台機構。ワイヤーとモーターにより電動で舞台が回ります。この規模の回り舞台がある施設は、県内では稀有です

時代のニーズに合わせて変化してきた文化会館

「桑名市に文化活動ができる施設を！」。各団体の熱望を受けて誕生した桑名市民会館では、演劇や音楽、日本舞踊など、さまざまなジャンルの活動に発表の場を提供してきました。2007年には、地域文化の活動拠点にふさわしく、誰もが使いやすい芸術創造施設としてリニューアル。それまで大ホールしかなかった市民会館に、小ホールが誕生しました。

小ホールにはピアノや室内楽、邦楽など、さまざまな音楽の魅力を最大限引き出せるよう反響板を常設。ステージもヒノキ造りで音を美しく響かせます。また、測板を回転させると響きを抑えられるので、講演やセレモニーなどの催しにも対応。308席と比較的小規模なホールであることも「手頃な客席数で使いやすい」と好評で、近郊地域からの利用者も少なくありません。

リニューアル時には創立時からある大ホールも、元の良さを生かしつつ改装しました。桑名市内随一の規模だった1388席の客席や回り舞台、小ゼリ、大ゼリは当時から現在まで残されています。壁や天井の素材を変えることで、これまで残響のなかったホールの音質が格段に向上しました。

ほかにも、100人程度を収容可能な大会議室と、20～30人程度収容できる会議室が4室設けられ、楽屋としても利用されています。各種団体に広く意見を募り設計に反映したため、和室の会議室や、鏡張りのリハーサル室もあります。可動壁で自由にレイアウトできる展示室もでき、たびたび写真や絵画の発表会が開かれています。

時代のニーズに合わせて、変化してきた桑名市民会館。今年1月には、桑名市民会館のネーミングライツ・パートナーとしてNTN株式会社桑名製作所と契約を締結。4月1日より市民会館の愛称が「NTNシティホール」と変わります。しかし、開館から50年、リニューアルから10年かけて築いてきた市民との絆は変わることなく、今後も文化発信の拠点としてあり続けていくでしょう。

舞台照明設備が刷新され、機能性が一層高まった大ホール。さまざまなジャンルの舞台づくりに対応しています

利用者を支え、支えられて成長を続ける市民会館

56年前に創立した「劇団すがお」。演劇の発表の場を求めて、桑名市民会館建設の運動にも携わっています。その主宰を務める加藤武夫さんは、これまで20回ほど桑名市民会館の舞台に立ちました。大ホールの回り舞台を使用した経験も5回ほどあるといい、舞台が回り別のセットが現れる演出に、観客からは「わーっ！」と感嘆の声があがるそう。

「この会館の舞台は奥行きが十分にあるので、大人数が舞台にあがれる、遠近感が演出でき、多彩な表現が可能になるといったメリットがあります」と加藤さん。駅から近い。楽屋も多く、使い勝手がいいと魅力を語りながら、「桑名市民会館は桑名市の一つのシンボルです。特に大ホールは、表現者の憧れの舞台となっているのでは。桑名市らしい、市民のための自主企画などを実施し、魅力を発信していってほしいです」と続けました。

そんな利用者の声を聞き、運営に携わる桑名市民会館館長補佐の川渕英樹さんはうれしそうにほほ笑みます。「利用者の公演の成功は、私たちにとっても喜びです。無事に終わった後の『大変お世話になりました』『お疲れさまでした』という声にいつも励まされています」。スムーズに運営できる場合もあれば、なかにはトラブルもあるそう。その一つを、思い出すように語ってくれました。

昨年の秋、名古屋国際会議場で開催される全国高校吹奏楽コンクールの練習のため、千葉県習志野高等学校の吹奏楽部が桑名市民会館を利用した際のこと。コンクール会場へ出発後、楽器が一つ忘れられていました。慌てて連絡をとったものの、名古屋から楽器を取りに戻ると、コンクールの演奏に間に合いません。川渕さんは咄嗟の判断で車を走らせ、演奏前に持ち主の生徒に手渡しました。「頑張って練習する姿を見て、いてもたってもいられずに行動しました。楽器を受け取った生徒のほっとした表情が忘れられません。習志野高等学校は銀賞を獲得でき、保護者からもお礼の電話やハガキが届きました」と語ります。

「市民会館は、普段の活動の成果を発表する貴重な場として機能してきました。市民のみなさんや、他県の方にもどんどん利用していただけるようにしていきたいです」と、宮木嘉彦館長。今後の展望について、華やかな演出の大ホールと音の響きが美しい小ホールを提供していきたいと語りました。これからも桑名市民会館は、市民にとってより利用しやすく、魅力のある施設へ成長を続けていきます。

劇団すがおの舞台の様子。
上が『歌行燈』、下が『石取祭』です

桑名市民会館館長補佐
川渕英樹さん

「受付の対応など、細かな点にも注意を払うことが不可欠です。みなさんに、気持ちよく利用していただける施設にしていきたいです」

桑名市民会館館長
宮木嘉彦さん

「どなたにも利用しやすい施設になるよう、これからも頑張ります。みなさまのご来館をお待ちしております」

三重県舞台管理事業協同組合
テクニカルディレクター 水藤克夫さん

「ご利用されるお客様を技術的な面で支える専門職です。これからもお客様に満足していただけるようにしていきます」

劇団すがお
主宰・加藤武夫さん

「劇団すがおは今年で創設55年、市内はもとより、県内外、海外でも公演を行ってきました」

文／江藤莅夏　写真／多賀啓司　デザイン／ABBEYROAD